

現場で活躍する地域の指導者と連携した普及活動の強化



各地域に交通安全教育を定着させるためには、現場で活躍する指導者の力が不可欠です。Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員*、学校の先生方に対し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材、その指導方法を提供するとともに、新たなノウハウの創出に向けた情報交換を積極的に行っています。

*交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

地域の指導者が必要とする 新たなノウハウ創出に向けた情報交換の場づくり

Hondaでは、全国5カ所の各製作所内にある地区普及ブロックがHondaの交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。

8月に各地区普及ブロックが開催した「交通安全教育プログラム勉強会(以下、勉強会)」では高齢歩行者向けの新たな教育プログラム(P10参照)を発表し、その内容と指導方法について解説しました。また現在、Hondaが開発中の幼児・児童を対象とした新たな教育プログラムの概要(P11参照)も紹介。勉強会では開発の方向性を理解していただいた上で、実際の現場で使用する際の課題などについて話を伺った他、新たなアイデアも出し合っていました。現場で指導を担う方の知識・経験と、Hondaのノウハウを組み合わせることにより、効果的で使いやすいプログラムを開発していきます。そして、ここで得られた意見や要望は今後の開発に活かしていく予定です。

Hondaのノウハウを活用した交通安全教育を実施したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

栃木普及ブロック(栃木県真岡市) TEL:0285-84-7114
埼玉普及ブロック(埼玉県狭山市) TEL:04-2955-5323
浜松普及ブロック(静岡県浜松市) TEL:053-439-2316
鈴鹿普及ブロック(三重県鈴鹿市) TEL:059-370-1553
熊本普及ブロック(熊本県大津町) TEL:096-293-3206



全国5会場で140名が参加した「交通安全教育プログラム勉強会」

地域の指導者による Hondaの教育プログラムの活用

高齢歩行者向けの教育プログラムは勉強会に参加した交通指導員の方々を中心に活用が始まっています。岩手県滝沢市・交通安全教育専門員の方々は、市内の高齢者を対象にした交通安全教室で使用。歩行者とドライバーの各々の目線で道路横断中事故の過程を再現した映像や道路横断シミュレーションを使って、なぜ事故が起きるのか、安全に道路を横断するためにはどうすればいいか、高齢者に理解してもらいました。また、(一財)長野県交通安全教育支援センターの指導員の方々は、交通安全のイベントでの寸劇の中に道路横断シミュレーションを取り入れました。

活用していただいた方々には「道路横断シミュレーションなどで臨場感のある映像を使えるのは、指導する上でたいへん有効」「高齢者の方への説得力があり、自分たちで内容をアレンジできるので使いやすい」と好評です。来年以降、さらに多くの指導者に活用していただけるよう普及拡大をめざしていきます。



岩手県滝沢市・交通安全教育専門員の方々による交通安全教室



(一財)長野県交通安全教育支援センターの指導員の方々による交通安全教室

高校主体による交通安全教育を 実施するためのマニュアル制作を開始

高校生年代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められる時期です。Hondaは生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守れるようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、独自に高校生交通安全教育プログラムを2012年に開発しました。それを全国の高校に広げるとともに、各高校が交通安全教育を継続して実施できるための体制づくりもサポートしています。そして今年、活動意志のある高校が自主的に運営できるよう、マニュアルの制作を開始し、現在、試作版を使って検証を重ねています。このマニュアル(DVD)には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「実技」「感受性教育※」といったプログラムが収録されています。「実技」では「内容の説明」「デモンストレーション」「実走行」「まとめ」などについて映像を使って解説しています。

群馬県立太田工業高等学校は2013年からHondaの高校生交通安全教育を取り入れています。3年目を迎えた今年、同校の先生方だけで生徒への交通安全教育を実施。マニュアル試作版を活用して自転車の実技と座学を行い、生徒に相手を思いやることや、交通ルールを守ることの大切さを理解してもらいました。同校生徒指導部交通係の中島雅人教諭は「マニュアルによって、指導を担当する教員同士

高校生交通安全教育指導マニュアル 実技



詳細については、指導マニュアルをご覧ください

ここをクリック

「高校生交通安全教育指導マニュアル」



群馬県立太田工業高等学校の先生方による自転車教育

の意思統一がスムーズにできました。実技でのコースの設定や指導の流れ、生徒にアドバイスすべきポイントが明確になっていたため、交通安全指導の経験がない教員にもわかりやすかったと思います」と話しています。今後検証を重ね、今期中の完成をめざし進めていきます。

※感受性教育とは=交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。

一人でも多くの方に 交通安全教育を拡大



一人でも多くの方の安全を守りたいという考えのもと、交通安全の普及拡大努めております。普及活動の「場と機会」を拡大するため、異業種との連携に取り組むなど、子どもから大人までより多くの方々に安全意識を高めてもらうことを目的に様々な場所で交通安全教育を展開しています。

他業種との協働展開による 交通安全活動の拡大

以前から学校や公民館での交通安全教室などは広く行われてきましたが、Hondaでは全国での交通安全活動を行う場と機会を増やしたいと考え、他業種との協働による取り組みを模索しました。

イオンバイク(株)は全国に300店以上の店舗を展開する自転車専門店、お客様と自転車の安全・安心を追求しており、同社とHondaは同じ想いを持っていることから連携することとなりました。両社の強みを持ち寄ることで、互いにない部分を補完し、活動をより充実させることが目的です。イオンバイクが集客やスタッフなど「場と機会の提供」、そして専門スタッフによる自転車の点検、Hondaが指導方法など「ノウハウの提供」を担い、9月に「親子で学ぶ 自転車乗り方教室(以下、教室)」(後援:さいたま市)をイオンモール浦和美園(埼玉県さいたま市)で開催しました。対象は補助輪を外すことを検討していたり、補助輪無しでは走行に不安がある子どもと、その保護



イオンバイクとHondaによる「親子で学ぶ 自転車乗り方教室」

者。この教室の目的は子どもが時間内で自転車に乗れるようにすることではなく、発進する前に右後方を確認する、両手でブレーキをかけて停止できるようになるなど、安全行動の必要性を保護者に伝えることに重点を置いています。そして、教室では保護者が先生役となることで、家庭でも引き続き、親子で練習できるようにしています。

今回は39名の子どもが参加し、保護者からは「私たちでは気づけない安全の観点での指導も盛り込まれていて、ありがたい」という感想が聞かれました。イオンバイク(株)取締役営業企画本部長の矢部勝己さんは「私たちは自転車を販売するだけでなく、お客様に安全に楽しく利用していただくための提案をしていきたいと考えています。今回参加したスタッフが身につけた自転車教育のノウハウを関東圏から全国の店舗へと広げていきたい」と話しています。こうしたイオンバイクの取り組みにHondaも協力していく予定です。

Honda Carsとの連携による 交通安全教育の「場と機会」の拡大

埼玉県内のHonda Cars(四輪販売会社)で構成する埼玉県ホンダ会はHondaとの共催で、国営武蔵丘陵森林公園(埼玉県滑川町)のイベント「Outdoor Park in 森林公園」の中で、Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりい」などを使った幼児・児童向けの交通安全教室を実施しました。埼玉県ホンダ会会長の田口忍さんは、「大勢の人が集まるイベントで交通安全教室を実施することによって、一人でも多くのお客様に交通安全に目を向けていただけますし、私たちHonda Cars全体の交通安全に対する意識も高まると考えました」と開催の意義を話しています。今後も、地域に密着した交通安全教育の新たな「場と機会」の拡大にチャレンジしてまいります。

交通安全の動画やポスターを募集し 参加者の安全意識醸成をめざすコンテストを実施

昨年に引き続き、今年も7月から9月にかけてHondaのホームページで交通安全の動画やポスターを一般の方々から募集しました。第2回となる今回のテーマは「みらいの交通社会〜いろいろな乗り物を運転する人や歩く人、またはクルマやバイク、自転車がこうなったらもっと安全になるのでは?〜」ということを30秒の動画やポスターとして表現してもらい、コンテストを実施しました。コンテストに参加することで少しでも交通安全について考え、自ら安全な行動を意識してほしいという想いのもとに開催しています。入選作品は、Hondaのホームページで公開しています。



「親子で学ぶ 自転車乗り方教室」での発進前の右後方の確認などに重点を置いた基本練習



埼玉県ホンダ会による国営武蔵丘陵森林公園での交通安全教室



ポスターの部・大賞



動画の部・大賞

お身体の不自由な方々の 安全安心な移動へのサポート



身体の不自由な方々の社会復帰に向けた安全な移動手段の確保のために、運転の評価や訓練の機会の提供と、地域における運転復帰プロセス全体の支援として、病院や福祉団体、自動車教習所との連携を進めています。また、今後の高齢化の進展により増えてくる、デイケアセンターなどに車で送迎される方々の「安全安心な移動」の実現にも取り組み始めました。

福祉領域の安全運転教育を 自動車教習所を核に普及拡大

高次脳機能障がいなどにより加療中の方々は社会復帰をめざしてリハビリテーションに取り組み、その中には運転復帰を希望される方もたくさんいます。こうしたリハビリ中の方々の運転に対する評価や訓練をサポートするため、Hondaは「自操安全運転プログラム」*(以下、自操プログラム)を開発し、全国の交通教育センターで受講できる体制を整え、活用いただいています。また、こうした「場」の拡大をめざし、Hondaが連携している自動車教習所の協力を得て病院やリハビリ施設での活用拡大を図っています。

青森県では(株)ムジコ・クリエイティブが自操プログラムを同社経営の4つの自動車教習所(弘前モータースクール、青森モータースクール、八戸モータースクール、浪岡モータースクール)での受講者の受け入れに向け、同社とHondaは4校の教習指導員を対象とした自操プログラムの研修会を弘前モータースクールで実施しました。研修会に参加した教習指導員の方々からは



弘前モータースクールでの自操安全運転プログラム研修会

「青森県は公共交通機関が充実していない地域が多いので、運転は生活していく上でとても重要なことです。自操プログラムによって、一人でも多くの方の運転復帰をお手伝いしたい」「障がいをお持ちの方は不安をかかえた状態で教習所にいらっしゃるはず。そうした不安を少しでも和らげられる対応を教習所全体で考えたいと思います」という声が聞かれました。この他、沖縄県の津嘉山自動車学校も自操プログラムを導入し、来年は他の地域にも拡大していく予定です。

※リハビリ加療中の方々の運転復帰を車両訓練でサポートし、より安全に自由な移動を楽しんでいただくことをめざす安全運転プログラム。

病院同士の連携による 運転復帰プロセス構築を支援

四国では、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト(P26参照。以下、ソフト)」を導入している病院が連携して、運転復帰をめざす方々の運転能力の評価方法や判断基準の確立に向けた活動を開始しました。その第一歩として、ソフトや停止状態の実車を使って、運転評価に必要な様々なデータを収集し、検証を行っているところです。四国4県の作業療法士会とともに、Hondaもこうした活動をサポートしています。



津嘉山自動車学校に設置されている「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」



四国4県の病院が連携して活動を開始した運転復帰支援プロジェクト

デイケアセンターなど送迎車の 安全な運行を支援

交通教育センターでは自操プログラムのほか、「移送安全運転プログラム(以下、移送プログラム)」も提供しています。高齢者や障がいをお持ちの方々が施設等へ通うために必要な送迎サービスが増加する中、サービスを提供する方々が、送迎中の利用者への配慮など安全な運行に必要な意識や知識を身につけることができる教育プログラムです。群馬県では、福祉サービス送迎運転者講習会を昨年より開催していますが、このたびは群馬県住民参加型在宅福祉サービス団体連絡会は、来年2月より同講習会に移送プログラムの実技教育を導入します。それに先立ち、今年10月に交通教育センターのインストラクターが講習会担当者や施設管理者、送迎ドライバーへの体験会を実施し、今後の実技導入へに向けた対応を進めています。



群馬県内での導入に向けた「移送安全運転プログラム」の実施

手渡しで安全を伝える活動の さらなる充実に向けて



二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切に手渡しの安全活動を実践しています。Hondaでは、こうした販売会社の店頭活動のさらなる充実と、地域密着とするために交通安全教育プログラムや教材、その指導方法の提供を積極的に実施しております。

より多くのお客様と、 地域の方々の安全を守るために

Honda Cars(四輪販売会社)では店頭での安全アドバイスのさらなる充実に向けて、新たな情報発信をスタートしました。スタッフが携帯するタブレット端末向けに安全運転に関するコンテンツを開発し、納車や点検などでご来店されるお客様へのアドバイスの充実に取り組んでおります。また、Hondaのホームページ内にある動画による危険予測トレーニング(KYT)を来店するお客様に体験していただくためのデモンストレーション映像も作成しました。Honda Cars横浜「平塚中央店」では、この映像をショールーム内にある大型モニターに常時映し、お客様が点検や整備の待ち時間を利用してKYTが体験できる環境づくりを行っています。さらに、幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」の指導ノウハウを31都道府県のHonda Carsに提供し、ショールームやお客様感謝イベント、また近隣の幼稚園・保育

園での園児向け交通安全教室の開催を支援しています。これまでに全国352人(11月末現在)のスタッフを対象に指導ノウハウ勉強会を実施しています。

Honda Cars横浜「平塚中央店」のショールームで常時映しているKYTのデモンストレーション映像



Honda Cars千葉の女性スタッフを対象にした「あやとりい ひよこ編」の勉強会



関係諸団体との積極的な連携によって 交通事故の低減に貢献

安全運転の普及活動を行う関係諸団体の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場を提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援:(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)は今年15回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国73校131名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。この大会には、全国19校20名の教習指導員の皆様に審判員としてご協力いただいています。



第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

二輪車関連団体などの活動への積極的な協力

(一財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務や、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。また、(一社)日本二輪車普及安全協会が実施する安全運転活動への各種協力や、(一社)日本自動車工業会が推進する高校生原付通学者や高齢ライダーへの安全運転指導などにも協力しています。



第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での二輪競技



第46回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力



第48回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力

参加体験型の実践教育を主体に 受講者の気づきと理解を促す



全国7カ所にあるHondaの交通教育センター（P27参照）では社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様に参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約9万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

企業・団体などのニーズに合わせた 教育プログラムをオーダーメイドで提供

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、交通教育センターレインボー埼玉では生活クラブ連合会（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会）の新人職員を対象にした安全運転研修を実施しています。参加した新人職員はクランクやS字コースを走行する車両感覚訓練などを通じて、業務で使用するトラックの運転特性と安全運転技術を学びました。同連合会は「新人の段階から、安全に対する基本的な考え方と業務に必要な運転技術を身につけてもらうことができる」と評価しています。



交通教育センターレインボー埼玉での生活クラブ連合会の新人を対象にした安全運転研修

交通教育センターレインボー埼玉の 研修コース拡張

今年は交通教育センターレインボー埼玉に新コースが完成しました。新コースには信号機のある交差点や一時停止標識のある交差点などが設けられるなど、より一般道路の状況に近い法規走行訓練も可能になっています。既存のコースと合わせ、お客様の幅広いニーズに応えられるようになりました。



4月に完成した交通教育センターレインボー埼玉の新コース

企業・団体における交通安全活動の 情報交換を行う場づくり

交通教育センターは企業・団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。今年は、交通教育センターレインボー埼玉・和光が「2015トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催。「職場内の意識と行動で安全・安心な風土の確立」をテーマに、カンダホールディングス（株）や（株）ライドオン・エクスプレスの活動事例が紹介されたほか、自動車安全運転センター安全運転中央研修所の太田耕平氏による「安全に対する意識を高め、安全運轉行動を実践させるための方法」についての講演が行われました。



トラフィック セーフティ・フォーラムin埼玉（写真は2014年）

Hondaのインストラクターの 指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会として、日本および世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。16回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外9カ国からインストラクター67名が選手として参加。事業所ごとの競技ではありますが、大会中は国内外の選手は混成グループを組み、言葉の壁を乗り越え、一体となって二輪・四輪部門の各競技に臨みました。また、運転スキルだけでなく、指導者としての幅広い知識や指導力を向上するため、二輪・四輪の実技を交えた「実技指導力審査」（海外選手は「筆記レポート」）も行いました。



第16回セーフティジャパンインストラクター競技大会